



1820年頃の日原鍾乳洞「武蔵名勝図絵」より

株式会社 自然教育研究センター（CES）が
奥多摩ビジターセンターの新しい管理者となりました！

奥多摩ビジターセンターは、自然公園を利用する方に周辺の自然、歴史、文化などを分かりやすく展示し、情報提供を行う施設として1988年に設置されました。2020年4月からは（株）自然教育研究センターが管理を行っています。弊社は他にも、高尾ビジターセンター、御岳ビジターセンター、山のふるさと村ビジターセンターなどの運営も行っています。施設では、展示を用いて自然の魅力を分かりやすくお伝えするとともに、自然教室などでディープな魅力を解説したり、紅葉や動植物、登山道の通行止め、ツキノワグマの情報をホームページ、SNS（ツイッター、フェイスブック）で発信しています。建物内には、環境省の自然保護官、東京都レンジャーの事務所があり、自然公園内の様々な事例に関して情報交換を行っています。

奥多摩は、町全域が秩父多摩甲斐国立公園として位置し、2020年7月に指定70周年を迎えました。その魅力はとても多様で、多摩川沿いの渓谷、鍾乳洞見学、ウォーキングトレイルなどの自然散策、ラフティング、サイクリング、登山など利用者の目的も自然の楽しみ方も様々です。多くの方に奥多摩の魅力を体感してもらうことはもちろん、素晴らしい自然がこれからも保全されるためマナー普及にも努めていきます。また、利用者、関係者からの意見を東京都や環境省へ伝える窓口として、これからの国立公園、奥多摩地域をより良くしていくための意見交換の場としても活動していきたいと思っています。ぜひお立ち寄りください。



奥多摩ビジターセンター長 佐藤 舞子

奥多摩山歩きワンポイントアドバイス ～危険箇所の通過とフィックスロープの活用～

昨年は新型コロナウイルス感染症予防の観点から集団での登山が非常に難しい状況でした。こんな中でも、秋口からは互いの距離を2メートル程度離す所謂フィジカルディスタンス確保の新しい登山形式(withコロナ)が定着して参りました。

一方経験者と初心者の距離が離れるとどうしても目が行き届きにくい場面が出て参ります。危険箇所の通過時など、積極的にフィックスロープを張り、安全確保に努めたいものです。

そこで前回のセルフビレイに引き続き、今回特にフィックスロープの活用について取り挙げました。

I. リーダーがロープを固定

まずリーダーが始点にロープを固定し、途中途中で中間支点を取りながら、最後に終点にもロープを固定します。

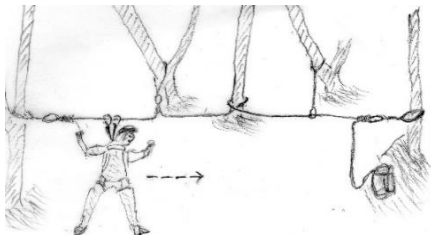


始点 中間支点 終点

始点や終点並びに途中の中間支点は、確実である事が絶対条件ですが、通過後の回収も容易に出来る結び方しておきたいものです。また危険箇所では自分の荷物についても上図右端のように、転落防止の対策をしっかりと取っておきます。

II. 初心者がカラビナをかけ替えながら通過

初心者は、チェストハーネス又はハーネスに結び付けられたスリング先端に、それぞれ取り付けられたカラビナを使い、支点では順に架け替えながらトラバースして行きます。(イラスト参照)



左の始点からトラバースを始め、中間の支点ではカラビナを架け替えながら通過する

この際2個のカラビナを絶対に同時に両方ともを外しては危険です。必ず片方が固定ロープに架かっていることを確認しながら通過して行きます。

III. ハーネスに2本のスリングでカラビナをセット



分かり易くするためハーネスに取り付けたスリングの色は、右側に赤、左側には青色を使用した

IV. ハーネスに着けたスリングの架け替え



始点側 中間支点 終点側

リーダーはあらかじめ初心者のロープワークに関し、この架け替え動作を含め安全な場所で習熟する迄、繰り返しコーチングしておきたいものです。

そうすることによって本番ではカラビナを同時に外す等の危険な動作が起きないという保証があってはじめてこのシステムを採用できるのです。また、終点では安全のため樹木等にセルフビレイします。

V. ロープの回収

リーダーは、メンバー全員のトラバースが確認できた時点でロープの回収に当たるのですが、狭い場所で何人もが一箇所に集まることは危険です。

それぞれがセルフビレイを取ったうえでの待機であり回収前に、むしろ安全な場所へ順次移動して貰います。

VI. 安全は全てに優先する

この言葉は長く言い古された言葉ですが寒い冬の時季であるからこそ、安全対策を積極的に取り入れ経験者と共に山歩きを楽しんで欲しいものです。

ロープワークについては必要最小限の方法を反復練習し、二重遭難を引き起こさないためにも目をつむってでも結べるよう習熟しておきたいものです。

今年も with コロナの時代。例年にもましてフィールドに出ることをお勧めします。そして、新鮮な空気に触れ、免疫力を高める登山に積極的に挑戦して欲しいものです。

※…with コロナの時代における自立型登山

- ①自身の健康維持 ②フィジカルディスタンス確保
- ③アルコール消毒薬 ④マスク(予備も含めて)
- ⑤少人数 ⑥睡眠 ⑦ゆとり ⑧予約の励行(山小屋)
- ⑨インナーシュラフ(小屋泊まり) ⑩混雑を避ける等

ガイド 富士 光男

No. 22 三頭山 1531m
(奥多摩三山)

三頭山登山に参加して

会員になって2年目にしつやっとの初参加です。参加者20人に対してガイド6人、研修生2人というなんとも贅沢でうれしい山行の構成です。尾根を登りながら班長さんがコウヤボウキ等々花やキノコをたくさん教えてくれました。ブナ林の美しい尾根も気持ち良くブナの大木も何本もあって、奥多摩の山がたくさん花とキノコとブナに彩られているとは驚きでした。三頭山がちょっと好きになりました。途中で足がつって皆さんに大変迷惑をおかけしました。半年ほど急登も長時間も歩いていないつけがで準備不足を痛感しました。都民の森からは登ったことがあるので、奥多摩湖の方から登るのを楽しみにしていましたが、ちょっと残念な結果となりました。とりあえず最後まで歩いて良かったです。優しい班長さん、研修生さん、お世話になりました。帰りのバスの運転手さんの軽妙な楽しいおしゃべりは忘れられません。

友の会会員 関 和子

見事に根を張ったブナの大木



コース 2020年9月17日 三頭山
9:10 「陣屋」前出発 ムロクボ尾根コース
11:25 又カザス山(昼食) 12:00 出発
13:40 三頭山到着 14:10 出発 鞆口峠コース
15:21 鞆口峠 15:37 都民の森到着
15:55 バス出発 17:09 武蔵五日市駅到着解散

6期生、ガイド研修奮闘中

こんにちは、初めまして。6期ガイド研修生の田村浩子です。東京都出身、国立市在住の山好きです。

ボランティアで東京都の奥多摩と高尾のサポートレンジャーとして登山道の安全点検・整備・補修なども行っています。

奥多摩観光ガイドに応募したきっかけは、奥多摩の山はアルプスなどと比べると地味ですが、里山歩きから手強い健脚コースもあり、とてもバラエティに富んだ魅力的な山域なので、もっと詳しくなりたいたいと思ったからです。

研修では奥多摩町の概要から始まり、観光ガイドの役割、観光スポット、特産品、歴史、文化、民俗芸能、文化財、動植物、自然や山についてなど多岐にわたり学びました。中でも歴史、地名の由来などはとても興味深いものがあり、自然だけでなく長い歴史に育まれてきた奥多摩の奥深い魅力を新たに発見しました。むかし道もその一つです。また、ガイドの心得や登山に関する安全管理・危険回避の講習に加えて、東京消防庁主催の上級救命講習も受講し、徹底的にお客様を安全にガイドする知識と技術を学びました。

ここから実習のスタートです。研修生としてイベント同行5回、下見も含めて10回の実技研修に参加しました。下見では、コース上の注意点や歩くペースなど先輩ガイドの方から教えていただき、イベント当日には実際にお客様と接して現場での役割を学んでいます。

学ぶことがてんこ盛りでまだまだひよっこですが、大先輩ガイドの方や時にはお客様に教えていただきながら、奥多摩の魅力を伝える「奥多摩愛」のガイドを目指したいと思っています。

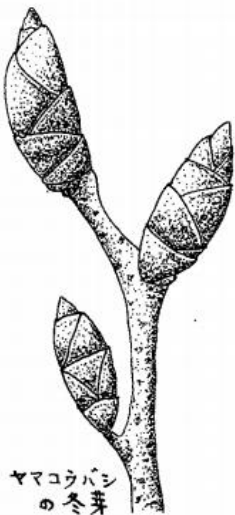
よろしくお願いいたします。

ガイド研修生 田村 浩子

奥多摩樹木雑話

～ 奥多摩湖畔にて ～

晩秋の奥多摩湖を訪れました。湖を囲むようにして連なる関東山地の山々。そのなだらかな山容は、太古の寒冷な時期に凍てつきくずれた結果によるものと聞いたことがあります。尾根から湖に落ち込む幾筋もの小さな尾根。谷間の黒々としたかげり、陽を浴びた斜面は、黄色や褐色の絵の具を含ませた刷毛で、軽く叩きまわしたように見えます。湖に近い丘に目をやると、灰色に煙り立つ丸いかたまりをつくっているのが、葉を落としたサクラ。黄色や紅色の樹形を横に広げているのがさまざまな落葉樹。濃緑色の両手をななめに挙げてたたずむのがモミ。これらをしばし眺めていると、それぞれの木の個性が感じられます。湖畔の森の径でも、木々はさまざまな季節の受けとめ方を見せてくれます。すでに、からだ全体を色づかせた褐色のヤマコウバシ、黄のアカメガシワ、ダ



ヤマコウバシ
の冬芽

ンコウパイ、紫のキブシ、ミツバツツジ、紅のヤマウルシ。そろそろ色づきはじめた褐色のケヤキ、黄のコウゾ、紫のマルバウツギ。色づく気配を全く見せていないコアカソ、ツツラフジ突如、上から顔をなでたサンカクツルなどなど。

これらの受けとめ方の違いは、何からきているのでしょうか。色どりをもたらす葉に含まれる酵素の量や

はたらきの違い、時にはこのような酵素が葉にならない場合とか、木々の個性に関係なく、葉に当たる日射量の違い、木が生えている場所の微気候の違いなどなど、自然のなせる業にはとまどうばかりです。

帰りがけ、落ち葉が降りつもった径を歩いていて、以前、私に話しかけてきた子どもの声を思い出しました。「葉っぱが落ちていくと、地球はだんだん大きくなるの?」「落ち葉をふむと、どうしてかさかさ音がするの?」・・・子どもの感性がとらえた疑問を大事にしながらかけてあげるのは、大変骨の折れることでした。

橋上 一彦

奥多摩の野鳥

～ 鳴きまね上手な鳥 ～

カケス： カラス科、全長 33 cm

(キジバトより少し小さい)

頭は白く、黒い縦斑がある

翼の一部に黒、青、白の横斑模様があって美しい

鳴き声はジャージャーと美しくない

奥多摩の山地、森林に生息

どんぐりなど木の実を主食とし、クモ、ネズミなども食べる

カケスは漂鳥で秋から冬にかけて見る機会の増える鳥です。夏場は声はすれども姿は見えなくて、見るのがむづかしい鳥ですが、晩秋から冬にかけて、里、平地で見る機会が多くなります。

カケスのおもしろいのは、鳴きまねの達人で、いろいろな鳥の鳴き声を巧みにまねます。例えばトビをまねた「ヒーヒョロロ」という声や「ニャーオ」という猫の鳴き声は一流です。おもしろいのは鳴きまねをしておきながら「シュー、ジャー」と正体を現すことがあり、何とも愛嬌があります。

奥多摩の冬、湖畔の小道やむかし道など奥多摩のいたるところで目にする事が出来ます。ぜひ、瑠璃色の後ろ羽の美しさと、鳴き声のギャップを楽しんで下さい。

ガイド 畑 幸夫



カケス

絵 大澤 新次

来させえ奥多摩写真展ルポ

好評につき奥多摩の小学校、中学校にて順次開催中です！

写真の腕は、名人・達人？

写真展といえば、高級な一眼レフやミラーレスカメラ等で撮影したのですが、我々ガイドの持つカメラは、山歩きに適した小型カメラ。画角とか構図とは縁遠い写真でしたが、奥多摩を歩くことは人一倍多く、シャッターチャンスを活かした写真が集まりました。

とっておきの宝さがし写真紹介

名人・達人奥多摩観光ガイドと名付けられ20年が経過し、区切りの意味もありましたが、奥多摩町観光産業課のヒット作「山里歩き絵図・21世紀の宝さがし」をテーマに写真をガイドから募りました。その中からいくつかを紹介します。

①「杉くね」 絵図番外・三ノ木戸



聞き馴れない言葉ですが、杣人の知恵でしょうか。風除けのために住居の周りに杉を植えたようですが、今や、住む人もなく、寂しげに廃墟の傍らにたたずんでいます。

② 猪ぐね(猪垣) 絵図No.6. 棚沢

棚沢(鳩ノ巣)の対岸、城山山麓にある坂下集落をイノシシの害から守ってきた延長50mにもおよぶ石垣です。近所に住んでいる方が「ししぐね」と呼んでいました。



ちなみに、秩父市にある猪垣は、埼玉県民俗文化財に指定されています。

③ オクタマスミレ



牧野富太郎が山梨県で発見したにもかかわらず「奥多摩」の名を冠して命名した希少種です。

④ 鉄五郎新道完成感謝状 絵図No.5 小丹波



古い写真のお蔭で鉄五郎新道は、西村鉄五郎氏が昭和3年に金比羅神社への道を手掛け、さらに御嶽神社までのいわゆる「鉄五郎新道」を完成させました。昭和31年に発足した奥多摩観光協会が表彰したことがこの写真で分かりました。

⑤ うらばなし

会場は、喫茶店「山鳩」。ランチタイムに来た人のために、蛇や蛙などの写真は、意図的に避けてアルバムで紹介しました。この機会に公開しますが、お食事の時には、思い出さないでください。



①蛇vs蛙

自然界では、こんなこともあります。



②ニホントカゲのバトル？「イトナミ」です。

③アゲハモドキの幼虫さすがの野鳥も蛾を身にまとった毛糸？を敬遠して食べないでしょう。

ガイド 岡崎 学

「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

- ① 氏名 ② 現役時代の仕事または今現在の仕事
③ 出身地 ④ 現住所 ⑤ 趣味、特技 ⑥ ガイドになったきっかけは？ ⑦ 今までガイドをして嬉しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ ガイドをする時いつも心がけていること

- ① ^{ひらつか} ^{よくし} 平塚 翼次 ② 営業 ③ 北海道釧路市
④ 羽村市 ⑤ 溪流釣り、囲碁、ギター弾き語り ⑥ 自分の趣味を生かせるかなと考え、2期生ガイド募集に応募いたしました ⑦ お客様に「今日は楽しかった」と言われたときは、一日の疲れが吹き飛んでしまいます ⑧ 安全第一、お客様の中には、我々より詳しい方もいらっしゃるので、知ったかぶりはしないこと、しゃべりすぎは禁物

- ① ^{しみず} ^{うめお} 清水 梅夫 ② 石工（石垣積み いろいろな現場で石垣を積んでいました） ③ 奥多摩町 ④ 奥多摩町 ⑤ ゲートボール、グランドゴルフ ⑥ 現在の会長原島さんに誘われて ⑦ 友人がたくさんでき勉強になりました ⑧ 足の悪い人への気遣い

- ① ^{はた} ^{ゆきお} 畑 幸夫 ② 強電(重電)メーカーの営業 ③ 京都府 ④ 昭島市 ⑤ バードウォッチング ⑥ 奥多摩の自然が大好きで、ガイドの募集に応募した ⑦ お客様が「奥多摩を好きになったよ」とおっしゃりリピーターになって頂くこと ⑧ 樹木や草花、野鳥や虫たちの名前を並び立てるのではなく、それぞれの生態の特徴や人間との関わりなど、面白い話を紹介するよう心がけています

『来させえ奥多摩』が奥多摩観光協会・奥多摩町観光案内所のホームページからお読み頂けます。

[奥多摩観光協会・奥多摩町観光案内所](#) [トップ](#)
[お知らせ](#) [メディア情報](#)

また、奥多摩町のホームページからもご覧いただけます。カラーでお楽しみください。

奥多摩ビジターセンターから

・11月10日より、川乗林道の通行止めが解除になりました。バスは川乗橋に停車します。百尋の滝、川苔山まで登山可能です。

・麦山浮橋が通行できるようになりました。三頭山、山のふるさと村へのアクセスが楽になります。

・大丹波林道、踊平から獅子口小屋跡、大ダワから足毛岩間は引き続き通行できません。

冬から春 奥多摩山歩き イベント案内

令和3年2月 から令和3年3月

No. 32 2月6日(土) 山ふるで体験と野鳥観察

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

No. 33 3月14日(日) 早春の御岳溪谷を歩く

川井、丹縄からスタート 名水百選の御岳溪谷を経て澤乃井園へ 清流あり、溪谷あり、酒蔵あり

No. 34 3月28日(日) 早春の奥多摩むかし道

♪「春は名のみの風の寒さや〜」(唱歌)

春の息吹を感じながら奥多摩湖へ

今年度のイベントもあと僅かになりました。多くの皆様に参加いただきありがとうございました。来年度も楽しいイベントを考えています。お楽しみに！



上の案内板は白丸駅西側の道路に置かれたものです。昭和19年、川合玉堂が、疎開していた白丸でこよなく愛した天地山を詠んだものです。

一部削られて判読できなくなっています。

正しくは

名に負へる天地嶽はも人知らず

奥多摩槍といはば知らまく

川合玉堂が天地山を詠んだものが他にもあります。

天そり立つや玉鉞多摩の奥に

かがやく雪の天地嶽かも

天地嶽日ねもす雲とたはむるる

ごとくも見ゆれ春ちかみかも

ガイド 小峰 一郎

次号発行予定：令和3年4月15日

発行 一般社団法人 奥多摩観光協会
住所 〒198-0212 奥多摩町氷川210
電話 0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集 名人・達人観光ガイドの会